

## バグダッド 日誌 (3月11日)

### ○ Take me to the Heli Pad

「エクスキューズ・ミー・サー！」という声が突然聞こえてきた。何の騒ぎだろうと思って入口まで出てみると、大きい荷物を3〜4個かかえた小柄な米兵が、日本コンテナの前に座り込んでいる。東洋系で我々と身近な感じのする軍曹で、いかにも辛そうに上目遣いでこちらを見ていた。「どうしたんだ？」と聞くと、「ヘリパッドまで送ってくれないでしょうか？」と弱々しく願った。「はあ？」と一瞬耳を疑ったが、本当に辛いらしく、「お願いします。」と言う。「班長、どうしましょう？」送ってあげよう。」と、班長が武士の情けをかけてあげた。

日本の事務所から、グリフィンと呼ばれるヘリパッドまでは直線距離にして200m位しかないが、道路が迂回しているので、歩くと10分近くかかる。アーマーを着て荷物を持っていれば、日中の暑さも加えてかなり辛いものだが、送迎を願ひ出るまでもないのだが……。ましてや、身も知らない他国の者に助けを求めるとは……。首をかしげつつも、荷物を車に積んで、グリフィンに向かって車を出した。

「どうしたの？どこから来たの？」BIAP(バグダッド国際空港)から来たんですけど。「BIAPから歩いてきたの？」(歩くには、まず不可能な距離にある。」「バスできました。」「何処へ行くの？」「ファルージャです。」「そうか。結構怖いところに行くんだね。で、何故一人でうち(日本事務所)に来たの？」「バス停でトイレに行っていたら、仲間とはぐれてしまって……。歩いていたらヘリパッドがわからなくなってしまいました。時間も迫ってきて、ふと見ると、車と日本の旗が見えて、天の助けだと思ったんです。本当に助かりました。ありがとうございます。」彼は、何度も何度も頭を下げてお礼を言った。

ヘリパッドに到着すると、彼の仲間を発見したようで、私にもう一度お礼を言うと、重そうな荷物を抱えて急いでヘリの方に向かった。

どういう事情かは良くわからないが、ファルージャに派遣される兵士が、はぐれたとはいえ地理感覚のないキャンプヴィクトリーで単独行動をしていたということは、不自然だ。また、ヘリパッドで待っていた仲間の兵士達もちゃんと団体行動するべきなのに、あまりにも冷たい。派遣先が派遣先であるだけに、彼と彼の仲間が派遣期間を無事に任務を全うし、元気な姿で帰国できることを願わないではいられなかった。



## バスラLO日々業務報告(3月11日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [REDACTED] [REDACTED] (警戒態勢) : [REDACTED]
2 特記事項	(1) [REDACTED] (2) [REDACTED]
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [REDACTED] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝・夕会議、J2・J3・J9認識統一会議 (4) 副師団長サマワ訪問、J1/4部長サマワ訪問等調整
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議、指揮官会議参加 (3) 副師団長サマワ訪問、J1/4部長サマワ訪問等調整
5 その他(備考)	* R&R [REDACTED]